

脊髄小脳変性症患者の歩行の力学的安定性に歩行変動性が及ぼす影響

奥田 悠太¹⁾ 菊地 豊¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 神経難病リハビリテーション課

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経内科

[目的] 脊髄小脳変性症 (SCD) 患者の歩行の力学的安定性に歩行変動性が及ぼす影響について検討した。

[方法] SCD 患者 20 名と年齢や性別を合わせた健常者 22 名を対象とした。歩行の力学的安定性の指標として Margin of Stability (MOS)、歩行変動性の指標としてストライド時間の標準偏差 (SD)、歩幅の SD を算出した。力学的安定性と歩行変動性の指標について相関分析を行った。有意水準は 5% とした。

[結果] SCD 患者の MOS はストライド時間の SD と有意な正の相関 ($r=0.52$) を認めたが、歩幅の SD とは有意な相関を認めなかった。健常者の MOS は歩幅の SD、ストライド時間の SD とともに相関を認めなかった。

[考察] SCD 患者においては、歩行のストライド時間の変動性が高い患者ほど力学的安定性を高く保つ傾向が示された。